

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201195
法人名	社会福祉法人今治市社会福祉協議会
事業所名	今治市社協グループホームゆいの里
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2435番地14
自己評価作成日	平成25年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしいあり方を考えながら、日常生活のなかで心身の力が発揮出来るよう職員が利用者と一緒に行動することにより、里での生活を支えている家族であることを感じてもらえるよう日々頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●避難訓練は、併設する3事業所が合同で実施されている。6月には、消防署、地域の消防団、警察、地域の方等に協力していただき、夜間に併設の事業所から出火したことを想定して避難訓練を行われた。実際に避難を行う前に、地域の方等に各事業所の中を見学していただき、職員がサポートしながら、「なるべく地域の方に利用者の誘導をしていただく」ようにされた。地域の代表の方の電話番号は、「緊急連絡先」として、居間の壁に貼っておられた。昨年9月には、「地震を想定した津波警報発令に伴う避難訓練」を3事業所合同で行われ、避難場所である旧保育園まで車で移動された。備蓄については、事業所ごとに、水やカンパン等を用意されている。 ●法人全体で、「職員のリフレッシュ」に取り組まれており、職員の要望を聞きながら、図書館での映画鑑賞会や健康ウォーキング、山登り等の取り組みをすすめておられる。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 今治市社協グループホームゆいの里

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

渡辺 優子

評価完了日

平成25年5月25日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「家のぬくもり、人のぬくもり、地域のぬくもりに触れあいなが ら、その人らしく暮らして頂けるよう、お手伝いさせていただき ます。」の理念のもと、一人ひとりの思い、今できることを大切 にしながら安心した暮らしができるように実践につなげている。	
			(外部評価) 理念は、開設時に作成されており、玄関や居間に掲示され ている。又、毎月のミーティング時に職員で理念を共有して取 り組みをすすめておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 年間を通して、地域の行事「に参加している。夏祭り・マンド リン・お茶会・寄せ植えなど外部の協力を得ながら地域の 方々と一緒に楽しんだり、ボランティアの受け入れや、地元 の中学生の職場体験など継続的に行っている。	
			(外部評価) 毎年恒例となっている7月の「夏祭り」は、併設の介護事業所 全体で開催されており、利用者も参加して、地域の方達と交 流されている。月に1度、地域のお一人の方が夕食作りに来 てくださっており、利用者は、野菜の皮むき等を一緒に行 い、一緒に食事を楽しまれている。又、敷地内にある畑の管 理をしてくださっている地域の方もおられる。6月に地元神社 で行われる「御田植祭」には、毎年出かけておられ、利用者 は観光客や子どもを見て、たいへん喜ばれるようだ。中学校 の文化祭や運動会の応援にも出かけられるよう支援されて いる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 認知症の勉強会、介護教室、中・高生の職場体験・大学生 研修などの受け入れを積極的に行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行事報告、利用者の状況報告を説明し困難事例を提示し、色々な意見を伺いながらサービス向上へと活かしている。	
			(外部評価) 会議は、法人内のグループホーム・小規模多機能事業所の3事業所合同で行なっておられ、会場は、別棟にある法人福祉センター会議室等も含めて、持ち回りとなっている。会議には、民生児童委員や地域住民代表者、市の担当者、地域包括支援センターの職員等が参加されている。時には、利用者やご家族が参加されることもある。会議では、利用者一人ひとりの現況を報告して、事故やヒヤリハット報告等も行い、対応策について説明をされている。会議メンバーと利用者が交流できるよう、昼食を一緒に食べるような機会を作られたが、利用者は少し緊張されたようだ。	管理者は、「地域の方に気軽に参加していただけるような会議にしたい」と考えておられる。又、内容についても「マンネリ化しているのではないか」「楽しみごと採り入れてみたい」と話しておられた。法人介護事業所は、地域の中のケアの拠点でもあり、今後さらに、事業所やケア、認知症等の理解や協力を広げられるよう、会議の機会を活かして、地域のいろいろな年代の方に参加いただけるよう、働きかけていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 利用者の異常行動、認知の進行など保健師に相談し助言をいただきながら認知症専門の医への受診へとつなげていく。認知症更新時の状況説明、入居者検討会時に、意見をいただきサービスへと活かしている。また、地域ケア会議に出席し大三島圏域の各事業所等と連携を図っている。	
			(外部評価) 年に1回、市の保健師に講師を依頼して職員研修を行なっておられ、今年度は、5月に「感染症について」学ばれた。大三島圏域の地域ケア会議は、年3回開催されており、島内の介護施設や警察署員等の参加もあり、今年度から管理者が参加されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が利用者の思いを受け入れながら拘束しないケアに取り組み、身体だけでなく言葉の拘束にも常に配慮しながら自由な暮らしを支えるようにしている。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関は網戸になっており、自然の風が通っていた。おひとりで敷地内を散歩する利用者の方もおられる。管理者は、「強制や否定をしない」よう日頃から職員に話しておられ、利用者には「嫌な思いが残らないような言葉かけ」について話し合われている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者と一緒に暮らしていくなかで虐待と思われるような身体、精神的介護がないよう、スタッフ全員が日々振り返りながら相手の身になって介護を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度の勉強会の参加。必要と思われる場合は、本部・支所とも連携して活用出来るよう体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時の説明・重度化や看取りについて、家族本人の意向を伺い事業所の考えや取組について説明し理解が得られるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を二か月に一回行い、利用者・家族の方に参加していただき、意見や希望を交換する機会を設けている。また、家族会においてのご意見や利用者・家族様にアンケートを行いそれらを運営に反映させている。 (外部評価) 担当職員が利用者個々に書いた「近況報告」や「ゆいの里だより」は、2ヶ月ごとに発行されており、利用者の日常や行事の様子、利用者の表情等を、写真を多く採り入れ報告されている。ご家族は、便りを大事に保管して、ご本人がご自宅に泊まる際、一緒にみながら会話することを楽しまれる方もいる。ご家族の来訪時に、職員は、利用者の日頃の様子や体調等をお話して希望をお聞きしている。遠方に住むご家族等もおられて、行事参加できるご家族も少な目のようだ。又、家族会の開催も遅れがちのようだ。	事業所の行事や運営推進会議の日程等を、早めにご家族にお知らせしたり、内容等も工夫して、ご家族の参加を増やせるよう取り組まれてみてはどうだろうか。ご家族から意見や要望を引き出す場面を積極的に作り、さらなるサービスの質の向上につなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 支部長による個人面談でそれぞれの思い、意見要望を伺ったり職員研修時に意見・提案を聞く機会を設け反映させている。月に一回「の衛生委員会で、職場が良くなるしくみづくりの検討を行い職員の声を取り入れている。	
			(外部評価) ご家族にお渡しする事業所便りは、職員が順番で担当をされており、職員は、利用者みんなの顔が映る写真を載せるように心がけて作成されている。法人全体で、「職員のリフレッシュ」に取り組まれており、職員の要望を聞きながら、図書館での映画鑑賞会や健康ウォーキング、山登り等の取り組みをすすめておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者や支部長は職員と交流がもて業務や悩みを把握できている。資格習得に向け支援、各自向上心を持って働けるように外部・内部研修に参加出来るように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修計画を立て、ミーティング時に報告を行い共有する。内部研修を行い、お互いスキルアップへと努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 総会、研修、相互研修活動を通じて、他事業所の良い点を取り入れながらサービスの質の向上を目指している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接で、生活状態を把握するように努め、本人の思いや不安なことを受け入れ安心を確保できるように信頼関係を作れるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時、今までの生活状態やサービスの利用状況、家族の希望、思いを聴き事業所としてどこまで支援できるかなどの話し合いを持っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いを伺い、状態に応じたサービスの利用や情報を迅速に提供出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、後片付け、洗濯物干し、たたみなど利用者さんに応じた作業をして頂くことで共に生活し支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 誕生会、クリスマス会、夏祭りに家族さんにご案内し、利用者、家族、職員が一緒になり共に楽しみ、交流を深め合い、希望時には電話連絡し合い家族さんとの絆を大切に安心出来るように支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) お大師参り、お寺の花祭り、地域のお祭り見物、敬老会、買い物に出かけ、知人との交流の機会が多くもてるようにしている。また、通いなれた理容室へ家族さんと出かけている。 (外部評価) 地元神社で職員の結婚式が行われた際には、花嫁姿を見に5人の利用者が職員と一緒に出かけられた。利用者は、ご本人の結婚式を思い出されて、「昔は家で結婚式をした」「料理は黒塗りのお膳だった」等、昔話をされたようだ。「家に帰りたい」と言われる利用者も多く、管理者は、今後、利用者の「お宅訪問」をしたいと考えておられ、利用者のお宅に他利用者もおじゃまして、一緒に食事するような機会も作りたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) その時々に応じて、テーブルや席を移動し、お互いに気持ちよく過ごせるよう、常時見守りと気配りを欠かさないように心掛け不安や衝突をきたさないように適切な支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も家族と一緒に遊びに来られたり、行事の呼びかけに参加などがあり、必要な情報も提供できるように心掛けています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉として出ていることばかりでなく、表情や行動から本人の思いや視点にたちスタッフみんなが話し合い、自分らしくあり続けるように支援していくことに努めている。 (外部評価) 職員は、入浴時等、利用者と1対1になる時に、利用者の思いや意向の把握に努めておられる。普段は話をあまりしない方も、湯船でリラックスされた折には、若かった頃の話等をよくしてくださるようだ。入居時、ご家族にご本人の「生活歴や習慣、年代別の大きな出来事」等を「基本情報シート」に記入していただき、日々のケアに活かすようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族様から今までの、生活の様子や全体像を把握している。今までに生活してこられた馴染みの暮らし方を重視しスタッフ全員で支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活リズムを大切にしながら、その人の持っている力を引き出せるようにスタッフは常に寄り添い、その日のようすを伺いながら全体像を把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人や家族と話し合う時間をもち要望や意見を伺う。ひと月に一回利用者を取りまくスタッフ全員によるケアカンファレンスを行い、本人や家族様の意向、状態の変化にあった介護計画作成に努めている。	
			(外部評価)	
			毎月、職員ミーティング時に意見を出し合ってモニタリングを行うことで、介護計画の見直しにつなげておられる。ケアに対するご家族の希望等は、来訪時お聞きするが、具体的な希望を示される方は少ないようだ。管理者は、日々の経過記録から、利用者個々の「訴え」「いつもと違う言動」等、気になる所を抜粋して介護計画の作成につなげておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護記録を中心に、チェック表・連絡帳もとに情報を共有し、問題点ケアの変更など介護計画の見直しにつなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族さまの要望に応じて、外出・外泊が出来るようにしている。他のグループホームやデイ、保健センターなどにも出かけ、たの利用者とも顔なじみとなり交流している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			お大師参り、地方祭、敬老行事など、体調に合わせて外出したり、中学校の文化祭にも参加していえう。また、行きつけの理容室に家族の方が連れていってくださったり、逆に理容室の方が施設に出向いてくださったりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人や家族が希望する主治医の受診が出来ている。また、保健師同行の専門医の往診もあり、医師ごとに家族・職員が話会える機会も持っている。また、電話で利用者の状態報告を「行い指示が受けることができるよう支援している。	
			(外部評価)	
			かかりつけの医療機関の看護師が、サービス担当者会議に参加して、アドバイス等をくださることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			かかりつけ医の看護師との連携、事業所内の看護師に相談、協力の体制はとれており、体調の変化がうかがえるときには受診が出来るよう支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			利用者の状態確認を家族、医師より教えていただき、利用者や家族の意向に添って情報交換しながら対応可能な段階で早期退院できるようまた、入院時には本人の支援方法に関する情報を提供している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			契約時本人や家族の意向は伺っており、状態に応じた家族さんの意向を踏まえながら、医師、本人、家族、職員と話し合い、早い段階で事業所として出来る事を説明し意向に添った支援につなげている。	
			(外部評価)	
			入居時、ご家族には、「医療が必要になった場合は、入院になる」ことや「2ヶ月以上の入院になれば、退居になる」ことを説明されている。管理者は、「看取りが無理だとは言えないが、口から食べられなくなったら病院へ」と、話されていた。事業所内では、「要介護3以上になったら、他施設の申し込みをしてほしい、と示しておいた方がいいのではないかな」という考えもあるようで、事業所としての方針が定まっていない現状がある。	管理者は、看取り支援には、「家族の協力と医師との兼ね合いが必要であるため、現状では支援が難しい」と考えておられる。今後は、利用者ご本人やご家族の終末期のあり方の希望等もお聞きする機会を作り、事業所でできることについて話し合い、理念等も踏まえて事業所の方針を示されてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急法・AEDの研修を定期的に行っている。また、ヒヤリハットなどを書くことを習慣化し、些細なリスクを常に意識し、ミーティング時に職員で話し合うことによりイメージトレーニングもおこなっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 近隣のホームと合同で避難訓練を行ったり、地域のネットワークによる避難・消火訓練をおこなっており、その都度振り返りを行い次の訓練につなげている。 (外部評価) 避難訓練は、併設する3事業所が合同で実施されている。6月には、消防署、地域の消防団、警察、地域の方等に協力していただき、夜間に併設の事業所から出火したことを想定して避難訓練が行われた。実際に避難を行う前に、地域の方等に各事業所の中を見学していただき、職員がサポートしながら、「なるべく地域の方に利用者の誘導をしていただく」ようにされた。地域の代表の方の電話番号は、「緊急連絡先」として、居間の壁に貼っておられた。昨年9月には、「地震を想定した津波警報発令に伴う避難訓練」を3事業所合同で行われ、避難場所である旧保育園まで車で移動された。備蓄については、事業所ごとに、水やカンパン等を用意されている。管理者は、今後「いろいろな災害を想定したマニュアルを整備したい」と考えておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の生活のなかで、スタッフが利用者に対し、否定しない声掛けを心掛けて行っている。 (外部評価) 一人暮らしが長かった方もおられるが、職員は、日常生活の中でその人ができることを見つけて、たとえば、洗濯物干し等を職員と一緒にできるよう支援して、共同生活になじめるよう支援されている。昼食時、お箸を落とした利用者に、職員は、そっと拾って台所で洗い、利用者に手渡しておられた。又、職員は、利用者と「目線を合わせて」声かけするよう心がけておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者さんの何気ない言葉、口調、表情などをとらえながら、焦らずゆったりとした時間のなかで思いや希望の表出がしやすい声掛け、雰囲気づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の方のその日の体調をみながら、その人のペースで 過ごせるように心掛け、職員の都合の「ちょっとまって」はいう ことがないよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 利用者の方の持っておられる服のなかからその時期にあっ た服装を心掛けており、利用者のかたと相談しながら行っ ている。入浴のあとなど、化粧水や乳液などをつけていただ いたり、男性ではひげそりを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食材を使い季節感を味わって頂くような献立を考えてい る。また、食材の下ごしらえや味付けなどにもかかわってもら うよう支援している。子利用者のかたの嗜好、歯の状態、食 欲にあわせて盛り付けを行っている。食事の残食にも注意 し、体調の変化がないか様子をうかがっている。 (外部評価) 2ヶ月ごとの併設事業所持ち回りで献立を作っておられる。 職員は、季節感のあるものや利用者に食べたいものをお聞 きして、献立に採り入れるようにされている。「うずら豆」がお 好きな利用者が多いようで、朝食時、ほぼ毎日採り入れてお られる。食材は、近くの商店から配達してもらったり、利用者 と一緒に買い出しに行かれている。調査訪問時の食後には、ご 自分のお膳を下げる方や、職員が洗ったお盆や食器を拭く利用 者の様子がうかがえた。職員は、持参したお弁当を利用者と一 緒に食べながら食事介助されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔機能に応じて、キザミ・ミキサー食など食形 態、量を注意している。10時、15時に水分補給をもおこなっ ているが利用者の好みにあった飲み物としている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後には、口腔ケアの声掛けをおこないその方にあったケア の支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄を記録することにより、排泄のパターンを把握したうえでトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 尿意を訴えられない方も、時間を決めて誘導することで、トイレで排泄できるように支援されている。職員は、利用者のそわそわする様子等を見落とさないよう、気を付けて支援されている。事業所内には複数のトイレがあるが、利用者によっては「決まったトイレでないと落ち着かない」という方もおられ、職員は、同じトイレを使用できるように誘導されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄を記録し、排便習慣をとらえたうえで、水分・運動・食材などを考えながら行っている。強固な便秘のかたは、主治医に相談しながら緩下剤などを使用している。	
			(外部評価) 利用者の希望に出来るだけあわせ、体調をみながら支援している。また、日によって仲の良い利用者の方々で入っていたことにより、職員と二人のときは違う雰囲気の中で、会話や笑顔がみられている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後からが入浴時間となっており、利用者ごとに2日置きに入浴できるよう支援されている。シャンプー等は、利用者個々に好みの物を用意して使用されている。体を洗う際には石鹸を使用する方が多いようだ。浴槽は、深めの石造りになっており、滑ることもあるため、滑り止めマットを敷いて利用されている。ひとりで浴槽に入ることが難しい方には、職員が2人で介助して、浴槽で温まることができるよう支援されている。	
			(外部評価) その日の体調にあわせ、声掛けし和室や居室で休んでいた。和室に「おいては、みんなで横になりながらお話したり、昼寝をしたり出来る時間を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調にあわせ、声掛けし和室や居室で休んでいた。和室に「おいては、みんなで横になりながらお話したり、昼寝をしたり出来る時間を設けている。	
			(外部評価) その日の体調にあわせ、声掛けし和室や居室で休んでいた。和室に「おいては、みんなで横になりながらお話したり、昼寝をしたり出来る時間を設けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりがどんな薬を服薬しているか把握し、確実に本人に手渡し、服薬したことを職員が確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴を知ることにより、その方に応じた声掛けをおこない、ここでの生活を支える一員であると感じてもらえるように支援することをこころがけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気のよい日には、散歩したり他の施設に出向いたり、近くのお店に買い物に出かけたりしている。 (外部評価) 調査訪問時、職員と一緒に散歩に出かける利用者の様子がうかがえた。又、併設介護事業所の職員が誘いに來られて、地元高校の野球部に、利用者と職員と一緒に折った千羽鶴を県大会必勝祈願でプレゼントするため、2人の利用者が車で出かけて行かれた。毎年恒例になっているようだ。桜のお花見は、お弁当を持って「多々羅夢岬」に出かけられた。しだれ桜の有名なお寺は、1度花見に行ってから、毎年見頃になると電話で案内があり、お茶とお菓子を用意して接待してくださる。職員は、「ご家族の協力も得ながら、少し遠出をしたり、外食等もしたい」と話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来にくいため家族に了解をとり事務所で預かっている。必要におうじて一緒に買い物支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、すぐ家族に連絡を取っている。携帯を持っている方もおいでる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、場所が分るような表示を利用者と一緒につくっている。室温には、利用者と職員の体感温度が違うため、温度計や湿度計をみながら調節している。	
			(外部評価) 玄関先には、利用者と職員が一緒に植えたマリーゴールドや百日草等のプランターが配置されていた。敷地内の一角の畑には、現在、さつまいもを植えておられる。利用者は、日々水やりや草引きをして、収穫を楽しみにされている。春には、玉ねぎを収穫されたようだ。事業所は、古民家を再現したような造りになっており、天井が高く天窓から自然の光が入ってくる。テーブルの上には、利用者と職員が敷地内を散歩した時に摘んできた紫陽花等、季節の花を花瓶に活けられていた。居間の中央には、畳スペースがあり、昼食後はお昼寝のスペースになっている。壁には、利用者と職員が、お花紙を使って一緒に作った「バリエさん」や「七福神」等の壁画の作品を飾っておられた。調査訪問時、玄関先で、二人の利用者が職員と一緒に洗濯物を干す様子がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 長椅子を配置し一人で過ごしたり、数人で職員が交りゆったりと過ごす空間、雰囲気をごころがけている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は板の間であるが、畳をひいたり、ソファを置いたりして自由になっている。自宅で愛用していた品を持ってこられている。	
			(外部評価) テレビやタンスを持ち込まれている方もおられ、タンスの上に鏡や化粧水等を置いている方もみられた。ご家族の写真や誕生日に職員がプレゼントしたカードを貼っている居室もみられた。調査訪問時、ご家族からご本人の携帯電話に電話がかかってきて、笑顔で居室に戻られていく利用者がおられた。楽しくお話す声が聞こえていた。	ご本人が居心地よく過ごせるような環境作りについて、利用者ご本人の以前のお部屋の様子等もうかがいながら、ご家族とも相談し、しつらえ等について工夫されてはどうだろうか。たとえば、利用者が落ち着いて過ごせるような環境作りについて、見慣れている暦や時計等を使って、利用者がご自分で日時や季節が分かるようにされてはどうだろうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレやお風呂など、利用者の方に手伝ってもらい表示をつくり貼っている。また、居室のドアなどにもトイレの場所が不安な方には表示して安心感を持っていただけるように支援している。建物が広いため利用者のかたの歩行状態により補助具を使っていたり、手すり使用えお促したり、見守りを行っているかたもおいでます。	